

2

熊本市の小児医療

熊本市では子どもさんの健康を守るため、「地域子どもたちは地域みんなで守ろう」という思いのもと、開業医、市内病院、熊本大学病院などの先生やスタッフの方々が協力・連携し、子どもの健やかな成長、発達を見守っています。

また、熊本市では0歳から中学校3年生までの子ども達の医療費助成制度（ひまわりカード）がありますので、安心して医療を受けることができます。

熊本市の小児医療の枠組み

① かかりつけ小児科（クリニック）

子どもさんの「健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師」のことをかかりつけ医と呼びます。熊本市では30か所あまりの小児科専門医診療所が、「それぞれの子どもさんの特徴」に配慮して、急病や健診、予防接種のほか、健康や発達に関する色々な相談にあたっています。必ず、信頼しあえるかかりつけの小児科をもつようにしましょう。

② 病院小児科（入院患者の受け入れ）

かかりつけ医を受診し、さらなる治療や検査が必要と判断された場合は、病院小児科に紹介されます。熊本市のそれぞ

れの病院小児科は、一般小児科としていろいろな子どもさんをうけいれています。また、それぞれの病院小児科は得意な専門領域をもっているため、各医療機関が連携を取り合うことにより、子どもたちの様々な病気に対応することが可能となっています。

熊本市ならびに近郊の病院小児科のいくつかをご紹介します（順不同）

- ・ 熊本大学病院

- ：先天性代謝異常、新生児医療、血液免疫疾患、悪性腫瘍、こうげんびょう膠原病、腎疾患、神経筋疾患、内分泌疾患

- ・ 熊本赤十字病院

- ：救急医療、小児集中治療、循環器、新生児医療、腎疾患、消化器疾患

- ・ 熊本市民病院

- ：新生児医療、循環器疾患、小児心臓外科疾患、神経疾患、重症心身障害児医療、内分泌疾患
小児呼吸器疾患、小児泌尿器科

- ・ 熊本中央病院

- ：腎疾患、内分泌疾患

- ・ 国立病院機構熊本医療センター

- ：免疫不全疾患、血液免疫疾患、アレルギー疾患

- ・熊本地域医療センター
 - ：救急医療、アレルギー疾患、ハイリスク者に対する
予防接種
- ・くまもと江津湖療育医療センター
 - ：重症心身障害児医療、障害児療育
- ・国立病院機構熊本再春医療センター（合志市）
 - ：神経筋疾患、てんかん、不登校、心身症、重症
心身障害児の医療と療育、発育発達外来
- ・熊本県こども総合療育センター（宇城市）
 - ：神経筋疾患、発達障害の医療と療育

なお、熊本大学病院、熊本赤十字病院、熊本市市民病院には専門医のいる小児外科があります。

熊本市の小児救急医療

熊本市では小児の休日・夜間救急診療を主に熊本赤十字病院と熊本地域医療センターが担っており、年間約40,000人の子どもの受診を受け入れています。この2施設での救急医療を維持するため、熊本市の多くの小児科医が協力しています。とりわけ、熊本地域医療センターで行われている地域連携型の小児救急医療体制は「熊本方式」とよばれ、全国的に注目されています。すなわち、熊本市ならびに近郊の開業医、熊本大学病院、基幹病院小児科ならびに病院勤務の多く

の小児科医師が交替で、一体となって小児初期救急を行っています。この方式によって、他の地域では難しかった年中無休の小児初期救急医療が約40年間にわたり続いています。

重症の救急疾患に対しても、総合救命救急センターと小児集中治療室を併設した子ども医療センターが開設されている熊本赤十字病院で365日、24時間の対応が可能となっています。

また、子どもさんが休日・夜間に急に具合が悪くなった時に「救急外来を受診したほうがいいか」を迷う場合は、子ども医療電話相談（電話番号 #8000）に相談することもできます。

このように、熊本市では子どもさんの健康を守るための医療体制が十分に整備されていますので、安心して子育てができる環境となっています。

私達小児科医はいつも皆さんの身近な存在でありたいと思っています。一緒に未来ある子どもたちの成長を見守ってまいりましょう。

